



コミュニティ政策学会

コミュニティ政策学会

Japan Association for Community Policy

Newsletter No.20 (2010. 5.27)

第9回大会のご案内

「『地域主権改革』と地方自治、コミュニティ政策のゆくえ」

会 期：2010年7月10日（土）・11日（日）
会 場：北海学園大学 豊平キャンパス（札幌市）
主 催：コミュニティ政策学会
共 催：札幌市 会場校：北海学園大学

－第9回（札幌）大会の開催にあたって－

コミュニティ政策学会会長 中田 實

政権交代以後、「地域主権改革」という種がどんな姿で成長し、花を咲かせるのか、不透明のままに推移しているようです。ただ、「地域主権」の確立が、「地域住民が自らの判断と責任において地域の諸課題に取り組むことができる改革」を目指すものである限り、地域コミュニティを置き去りにした改革はあり得ないと思われまふ。地方自治法の抜本的見直しによる「地方政府基本法」の制定が工程化されているだけに、本学会としての議論は、しっかり進めていきたいと考えています。

他方で、アメリカのネイバーフッド・USAをはじめ、国際的な交流も活発になってきました。国内外の英知を集めたコミュニティ政策の研究と政策交流に一步を刻む学会となることを目指しています。

下記プログラムにありますように、第1日目に定例総会を開催します。今回は役員改選の総会です。多数の会員がご出席くださいますようご案内いたします。また、総会に引き続き、基調講演、鼎談、研究報告分科会等が、同会場で開催されます。あわせてご参加くださいますよう、ご案内いたします。

大会の開催をお引き受けくださった北海学園大学および札幌市の皆さまには大変お世話になります。まことに有難うございます。

参議院選挙投票日と学会第2日目がかぶっています。自治体職員の皆さまには出席しにくい日程かとは思いますが、事前投票をすませて、多数の皆さまがご参加くださるよう、お待ちしております。

会告 20-1：「第9回大会」第2分科会「自由論題部会」では発表者を募集しています。

以下の要領で発表の機会を設けますので、希望される方は発表原稿をお送りください。
なお、発表ご希望の方は、整理の都合上あらかじめ事務局までご連絡ください。

報告時間：15分程度

(応募された演題の数等によって、報告時間、発表順序を調整いたします。)

申請締切：6月14日（月）までに氏名、所属、連絡先、テーマをFAXまたはメールで、
学会事務局へお送り下さい。

FAX 0565-35-7020 E-mail a-compol@gakusen.ac.jp

原稿提出：6月21日（月）締切日厳守（当日配布する資料集に掲載させていただきます。)

原稿形式：ワード仕様A4サイズ最大3枚（図表を含む）までとします。

(E-mailの添付ファイルでお送りください。)

コミュニティ政策学会 第9回大会

テーマ：『『地域主権改革』と地方自治、コミュニティ政策のゆくえ』

〔会期〕 2010年7月10日(土)～11日(日)

〔会場〕 北海学園大学 豊平キャンパス

開催主旨

第9回コミュニティ政策学会・札幌大会では、鳩山政権の最重要課題「地域主権改革」の中に、住民自治の具現化に向けた地方自治体のコミュニティ政策や、「自治の基本である自己決定」の場としてのコミュニティ形成の条件整備がどのように展望されてきたかを明らかにし、今後の課題を提示したいと思います。また本大会では、厳しい雇用情勢や道内経済の不均衡発展が顕在化する北海道で、持続可能な地域経済の追求とコミュニティ政策をどうすれば一体のものとして実現できるのかも、具体的事例を取り上げ問題提起したいと考えています。

| | | |
|-------|---------|----------------------------|
| 大会参加費 | 会員 | 2,000円(資料代含む) |
| | 一般(非会員) | 2,000円(資料代含まない) |
| 資料代 | 1,000円 | |
| 懇親会費 | 4,000円 | (於 北海学園大学キャンパスレストラン「コスモス」) |

【プログラム】

第1日目 7月10日(土)

総会 : 13時～14時 (会員のみ・60番教室 <5号館6階>)



基調講演 : 14時15分～15時05分 (60番教室 <5号館6階>)

高原 一隆 (北海学園大学経済学部教授)

「経済活動と生活の営みの循環に立ったコミュニティを

ー地域経済学の視点から見たコミュニティー」

鼎談 : 15時20分～17時30分 (60番教室 <5号館6階>)

『『地域主権改革』と地方自治ーコミュニティ政策のゆくえー』

- 鼎談者
- (1) 佐藤 克廣 (北海学園大学法学部教授)
 - (2) 名和田 是彦 (法政大学法学部教授・本学会副会長)
 - (3) 高野 馨 (札幌市役所 市民自治推進室室長)

司会 中川 幾郎 (帝塚山大学大学院法政策研究科教授・本学会理事)

懇親会：18時～20時（北海学園大学キャンパスレストラン「コスモス」）

第2日目 7月11日(日)

分科会：9時30分～12時（7号館）

第1分科会「日本、米国、韓国のコミュニティ政策の課題と今後の方向を探る」

- 報告者 ① 佐藤 克廣（北海学園大学法学部教授）
 ② 横井 寿郎（札幌市役所 市民自治推進課長）
 ③ 安 成浩（大田大学校教授）
 通訳：朴 漢圭（北海学園大学経済学部非常勤講師）



司会 前山 総一郎
 （八戸大学ビジネス学部教授・本学会理事）

第2分科会「自由論題部会」

本紙第1ページの会告20-1で発表者を募集しておりますので、ご参照下さい。

特別分科会「地域コミュニティとNPOの結び付き

－札幌市における地域に入り込んだNPOの活動－

- 報告者 ① 喜多 洋子（特定非営利法人子育て支援ワーカーズ プチトマト代表理事）
 ② 長江 孝（NPO法人 こども共育サポートセンター代表理事）

モデレーター

加納 尚明（札幌市役所 市民活動協働促進担当課長）

コメンテーター

林 泰義（玉川まちづくりハウス運営委員・本学会副会長）

エクスカージョン：7月11日(日) 13時30分～16時00分

テーマ 「文化・芸術を創出する街 さっぽろのコミュニティ創造」

参加費 無料 定員 先着20名

タイムスケジュール

北海学園大学出発 → あけぼのアート&コミュニティ<施設見学> →

13:30 13:40～

生活支援型文化施設 コンカリーニョ<施設見学・ゲストトーク有> →

14:20～

椿サロン<施設見学> → 解散

15:15～ 16:00



※ 参加ご希望の方は、別紙参加票の該当欄に○印をご記入下さい。昼食は各自お取り下さい。

〔会場案内〕

北海学園大学 豊平キャンパス

〒062-8605 札幌市豊平区旭町 4 丁目 1-40

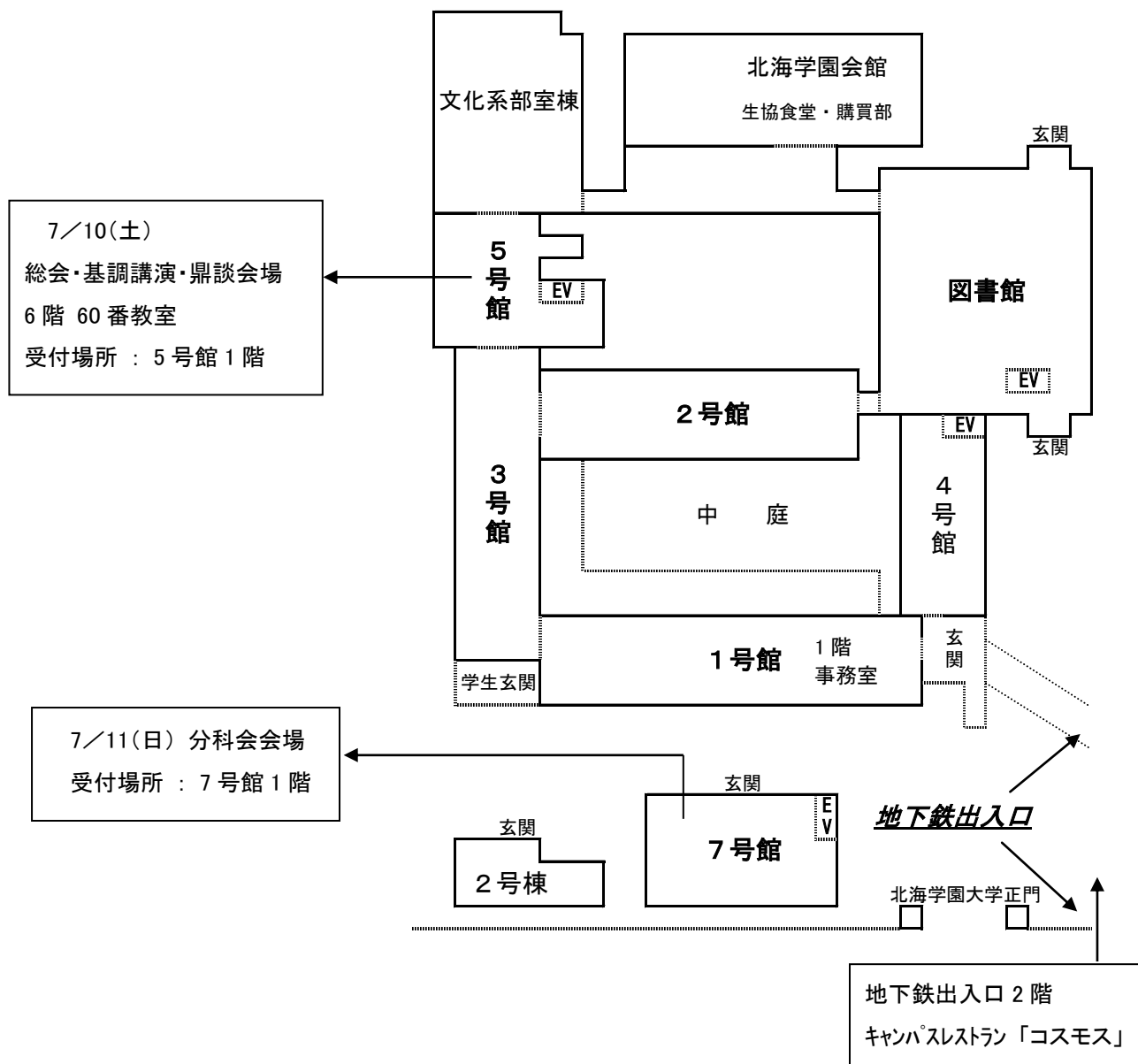
TEL 011-841-1161 FAX 011-824-7729

・地下鉄東豊線「学園前」駅にて下車、3 番出口直結。
（「大通」駅より乗車 5 分、「さっぽろ」駅より乗車 6 分）

* 駐車スペースはございませんので、
公共交通機関をご利用ください。



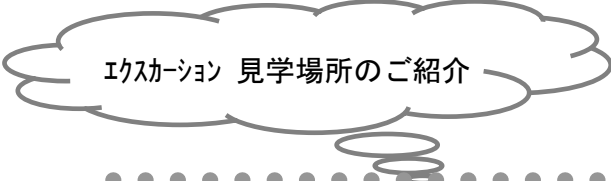
〔北海学園大学 学内配置図〕



〔宿泊施設のご案内〕

大会会場近隣の宿泊施設をご案内いたしますので、各自お申込み下さい。

| ホテル名 | 料金 | 備考 |
|---|--|--|
| ① 東横イン 札幌すすきの交差点 〒064-0804 札幌市中央区南4条西 3-4-1 TEL 011-207-1045 FAX 011-207-1046 | インターネット予約 <1泊朝食付> シングル 6,825 円 | 地下鉄東豊線 「豊水すすきの」駅から徒歩 3分 URL http://www.toyoko-inn.com/hotel/00100/index.html |
| ② ホテル ロンシャンサッポロ 〒060-0055 札幌市中央区南 5 条東 1 丁目 TEL 011-561-1131 FAX 011-561-0006 | インターネット予約 <1泊(朝食別途)> シングル 7,350~8,400 円 <1泊朝食付> シングル 8,925~9,200 円 | 地下鉄東豊線 「豊水すすきの」駅から徒歩 3分 「学園前」駅より約 1.2km URL http://www.ronshan.com/ |
| ③ ススキノグリーンホテル 3 〒064-0807 札幌市中央区南7条西1丁目 TEL 011-511-7211 FAX 011-511-7289 | インターネット予約 <1泊朝食付> シングル 7,500 円 | 地下鉄東豊線 「豊水すすきの」駅から徒歩1分 「学園前」駅より約 1.1km URL http://www.susukino-greenhotels.com/ |



エクサージョン 見学場所のご紹介

① あけぼのアート&コミュニティ

平成 16 年 3 月に閉校した旧曙小学校跡施設が、札幌市によって、文化芸術を発信し、地域とともに発展する施設「あけぼのアート&コミュニティセンター」として再整備され、再活用されることになりました。

この施設は、NPO 法人コンカリーニョが、平成 21 年 11 月 16 日から平成 25 年 3 月 31 日まで、管理運営を担当し、文化芸術と地域の出会いと交流の場として、当施設を有効に運営しています。

② コンカリーニョ

生活支援文化施設コンカリーニョは、主に市民の寄付によって設立・運営され、札幌市の文化発信施設であると共に、地域住民の交流拠点になっています。

③ 椿サロン

札幌市では、札幌独自のデザインスタイルを確立し、都市力の 1 つとしているところですが、椿サロンはカフェとデザインが融合した新しい地域コミュニティカフェです。

具体的には、子育てサロン、地域交流イベント、まちづくりへの募金活動など、デザインを大切にしながら幅広い地域の活性化の一翼を担っている注目の拠点です。

(実費ですが、お茶・茶菓が楽しめます。)

①



③



コミュニティ政策学会 第9回シンポジウム報告

テーマ：「コミュニティで公共交通を創出する」

開催日時：2010年3月28日(日) 13時30分～16時30分

開催場所：大和市コミュニティセンター 鶴間会館2階 集会室

共催：NPO法人かながわ福祉移動サービスネットワーク 後援：神奈川県、大和市

今回のシンポジウムは、2006年の道路運送法の改定以来、全国の自治体で大きな課題となっているコミュニティバスに着目し、コミュニティ事業として市民主体でバス運行に取り組む事例の検討を通して、コミュニティが公共サービスを担う可能性と意義について話し合うことを目的とした。開催に当たっては、市民が主体的に公共交通の創出に取り組むことを支援しているNPO法人かながわ福祉移動サービスネットワークとコミュニティ政策学会の共催事業とし、開催地である大和市と、NPO法人かながわ福祉移動サービスネットワークと協働事業に取り組んでいる神奈川県に後援をいただいた。

まずは、公共交通を巡る全国的な状況について、清水弘子さん（NPO法人かながわ福祉移動サービスネットワーク理事長）に基調講演を頂き、市民及び民間主体という点から3つの事例について報告を受けた。報告内容の概要は以下の通りである。

① 神奈川県大和市「鶴間地区循環バス」：滝沢誠さん（乗合バス運行準備会会長）、入澤牧子さん（乗合バス運行準備会副事務局長）

7つの自治会を運営主体とした原則無料のコミュニティバス。大和市との協働事業として2010年4月から運行予定。

② 神戸市北区淡河町(オカガチヨリ)「淡河町ゾーン・バス」：北川博巳さん（兵庫県立福祉のまちづくり研究所）

2009年3月から運行している過疎地有償運送のコミュニティバス。2002年にUターンしたNPO法人理事長の相良幸信さんが中心となって4台の福祉施設所有のバスを活用し、実施している。約3,200人ほどの町で毎月400人ほどが利用。運賃は、一律200円、行政からの補助金は受けていない。

③ 高知県中山間地域の過疎の生活を支える移動販売事業「ハッピーライナー」：向園英雄さん（日本サービス・流通労働組合連合政策局）

スーパー「サンプラザ」が過疎の集落の生活を支える移動販売に挑戦している。この活動を日本サービス・流通労働組合連合がまちづくり活動として支援。

基調講演の要旨は、以下のようなものであった。

NPO法人かながわ福祉移動サービスネットワークは、2007年から5年間「新たな移動困難者」の発見と課題解決の問題意識の下、神奈川県との協働事業であるかながわボランティア活動推進基金21協働負担金事業に取り組んでいる。2006年の道路運送法の改定は、コミュニティバスや乗り合いタクシーの普及促進の



方針は掲げたものの現実には民間交通事業者に対して乗合バスの規制緩和をしたにとどまり、十分に市民の移動の権利を守る方向には機能していないことは明らかである。このことは、2007年度に実施したアンケートにも表れている。神奈川県下において、交通不便地域があると答えた自治体は、90%以上あり、その中で住民の活動であったり具体的な要望や陳情がある地域は70%という結果である。

市民主体でコミュニティバスを企画し、運営・運行することは、コミュニティづくりそのものであるという認識に立ち、今回紹介された鶴間地区循環バスをはじめとする神奈川県下の公共交通創出事業の取り組みが紹介された。

報告の中で話された「地域交通は行政が作るもの」という考えやバス事業者やタクシー事業者などの認識はなかなか変わりません。ワークショップや準備会をする中でも、なんで行政が地域住民の足を確保しないのかということが何度も話し合われます。でも自分たちで作っていかうと、または自分たちで作って足りないところは行政が支援をしてくださいというように思うまでにすごく時間がかかります」という清水さんの言葉は、コミュニティ政策の課題そのものであるように思われた。

「淡河町ゾーン・バス」を支援している北川博巳さんの報告の要旨は以下のようなことであった。2006年に相良さんから相談を受け、アンケートを実施。自動車依存が高く自動車を持っていない世帯は、50に満たないという実態がその中から明らかになった。自動車がないと生きてはいけないこの町の暮らしをとにかく守るために、施設の保有するバスを活用し、経費を切り詰めて、行政の補助金に頼らず実施している。市役所の方々にはお金の面ではない様々な支援をしてもらっているが、安全運転のことが課題として残っているとのことである。現状はなんとか黒字であり、利用者

も 500 人以上と安定期に入っている。「交通手段を走らせるだけではなくてその先に多分何かが見えてくるのではないか」という北川さんの言葉が印象的であった。

向園さんの報告は、限界集落の「買い物難民」のために 25 年にわたり継続している「ハッピーライナー」と呼ばれる移動スーパーの活動である。サービス・流通連合は、これまでまちづくりの視点から高齢者の暮らしを守るようなまちづくりを提言してきた。報告事例は、高知県にある地元スーパー「サンプラザ」が 25 年にわたり県内 15 市町村にまたがって継続している移動スーパーを労働組合の全国組織が支援し、県とも協力しながら「見守り協定」を県とサービス・流通連合、サンプラザの三者で締結し、なんとか補助対象事業とし、この事業を存続させたという内容である。担当運

転手さんの「社長、教科書に載っているよ」という言葉から始まった継続への努力が、一企業の活動の枠組みを超えて、協働による新しい公共のあり方を実現したことに共感を覚えた。

全体討議では、十分な時間とは言えない中、各事例に対して活発な質疑が交わされた。かながわ福祉移動サービスネットワークの河崎さんからは、来年の 1 月に国会に提出される予定の交通基本法を視野に入れた活動を展開する必要があることが指摘された。今回のシンポジウムでは、公共交通とコミュニティというテーマで全国で起きつつある市民主体による課題解決の可能性を学ぶことができた。交通政策とコミュニティ政策の関係の深さを確認しつつ今後活かしていきたい。(文責：事務局担当理事 伊藤 雅春)

コミュニティ政策学会 第 16 回理事会議事録

日時 2010 年 3 月 28 日(日) 10:00~12:00 場所 大和市勤労福祉会館

出席者：中田實, 小沢昌己(新潟市長代理), 林泰義, 名和田是彦, 井岡勉, 岩波豊明, 大内田鶴子

田中義岳, 玉野和志, 鳥越皓之, 中西晴史, 横井寿郎, 前山総一郎, 山崎仁朗

事務局：伊藤雅春, 鈴木祐子 議長:中田 實

【審議事項】

1. 入退会者の承認：前回の理事会以降、入会 14 名、退会 1 名、3 月 28 日現在の会員数は 288 名、一般が 239 名、学生が 40 名、団体 7、NPO 団体 2 となった。
2. 第 9 回シンポジウムについて：「コミュニティで公共交通を創出する」というテーマで開催。大和市と神奈川県の後援を得て、NPO 法人かながわ福祉移動サービスネットワークと共催で実施する。コミュニティ自らが資金を集めて継続的に交通事業を実施する事例を紹介する予定である。
3. 第 9 回大会の企画について：当初の企画案は、基調講演として総理大臣補佐官の逢坂氏、会場校の北海学園大学の神原教授を想定。大会テーマとしては「地域主権改革と地方自治、コミュニティ政策の行方」を掲げた。鼎談としては、逢坂氏、神原教授、札幌市副市長または栗山町長、本学会からは名和田副会長など、進行役に中川幾郎理事という提案であった。第 1 分科会は、札幌市の姉妹都市であるアメリカのオレゴン州ポートランド市、韓国テジョン市を交えて 3 市の住民自治をテーマとする分科会とすることが札幌市から提案され、国際交流委員会との連携を検討することになった。第 2 分科会は基本的に自由論題とし、応募者の数によって分科会会場数を調整することが提案された。この後の審議では、大会初日が参院選挙予定日の前日に当たることへの配慮、「地域主権」概念を巡る議論など、多くのやりとりがなされた。最終的には、「地域主権」という現在の政策用語は括弧付きで使うこととし、テーマについては了承。基調講演と鼎談者の人選については、鈴木理事、中川理事が出席する臨時の企画会

議を開催して再度検討することになった。第 3 分科会とエクスカッションについては、選挙投票日となり自治会関係者が忙しいことが予想されるので、NPO 関係の分科会が可能かを札幌市に検討いただくこととなった。

【報告事項】

4. 「コミュニティ政策 8 号」の編集について：順調に進捗している旨報告があった。バックナンバーの PDF 化については、在庫処分の問題もあり更に検討することとなった。次期の編集委員として豊中市部長の田中氏と愛知学泉大学講師の谷口氏が加わることが報告された。次回の編集委員会は大会前日、札幌市内で開催の予定である。
5. 国際交流委員会からの報告：①5 月 26~29 日にリトルロック・アーカンソーで開催される NUSA の大会に国際交流委員会の大内委員長と前山副委員長が参加の予定。②NUSA のアフィリエイトの更新について承認。③NUSA 大会出席のための準備資料として、JACP の英語版ブローチャー、ピンバッジ作成、報告書の増刷。④国際研究に関する会員アンケート案の報告がなされた。その他、ホームページの英語表現について議論があり、できれば 4 月中にアップすることが確認された。
6. 第 5 期役員選考について：第 5 期の役員と委員の構成と理事の退任と継続について確認した。会計監査の交代にともなう人選については、中田会長に一任することとなった。
7. 次回大会の開催場所について：次回第 10 回の大会は、京都の同志社大学を候補として、中田会長と井岡理事を通じて鯉坂理事に打診することになった。

以上

コミュニティ政策学会会員動向（2009年7月4日から2010年3月27日）

2010年3月28日(日) 理事会承認

新入会員

| No. | 個人会員 | 所属等 | 推薦人 | 分類 |
|-----|--------|--|--------|----|
| 1 | 葛西 光春 | 横浜市市民活力推進局区政支援部 | 伊藤 雅春 | 一般 |
| 2 | 小野 奈々 | 信州大学経済学部助教 | 鳥越 皓之 | 一般 |
| 3 | 村上 和広 | 高松市役所市民政策部 地域政策課 | 岡内 須美子 | 一般 |
| 4 | 舘野 治信 | 宇都宮大学国際学部 大学院生 | 陣内 雄次 | 学生 |
| 5 | 平 修久 | 聖学院大学政治経済学部コミュニティ政策学科 | 伊藤 雅春 | 一般 |
| 6 | 田中 優 | 大阪国際大学現代社会学部 | 伊藤 雅春 | 一般 |
| 7 | 西谷内 博美 | 法政大学大学院政策科学研究科 博士課程 | 名和田 是彦 | 学生 |
| 8 | 水谷 衣里 | 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 政策研究事業本部 研究員 | 玉野 和志 | 一般 |
| 9 | 内田 和浩 | 北海学園大学経済学部 | 長谷部 英司 | 一般 |
| 10 | 牧野 裕行 | 愛知学泉大学 コミュニティ政策研究所客員研究員 | 伊藤 雅春 | 一般 |
| 11 | 芹澤 正恵 | 法政大学大学院政策創造研究科修士課程 | 伊藤 雅春 | 学生 |
| 12 | 武智 孝志 | 株式会社NTTドコモ 四国支社 | 吉岡 正博 | 一般 |
| 13 | 岸川 泰 | グルノーブル政治学院 | 高村 学人 | 一般 |
| 14 | 土屋 薫 | 江戸川大学社会学部 | 大内 田鶴子 | 一般 |

退会希望

| No. | 個人会員 | 所属等 | 推薦人 | 分類 |
|-----|-------|------|-------|----|
| 1 | 山岡 哲也 | 三重県庁 | 明瀬 政治 | 一般 |

コミュニティ政策学会 Newsletter No.20

愛知学泉大学 コミュニティ政策研究所内

〒471-8532 愛知県豊田市大池町汐取1 TEL 0565-35-7031 FAX 0565-35-7020

E-mail a-compol@gakusen.ac.jp

URL <http://www.gakusen.ac.jp/commu/a-compol/>

発行日 2010年5月27日 編集 事務局 伊藤, 鈴木